(IV－73)　住民参加のまちづくりにおけるイベントの意義と課題に関する基礎的研究

関東学院大学大学院　学生会員　田山智映子　　関東学院大学大学院　学生会員　島田真次
関東学院大学大学院　学生会員　杉山　貴久　　関東学院大学工学部　　正会員　昌子住江

1．研究目的

地域まちづくりの主体としての住民を考える場合，個別のテーマで集まった住民団体（いわゆるテーマ型コミュニティ）の存在が重要だといわれる。こうした住民団体は，問題意識も高く活動も活発な例が多い。しかし，それらが必ずしも地域の問題に関心があると言えない場合も多く，こうした団体をどのように地域まちづくりの中に組み入れるか，また団体相互の関係をどう生かすか等が課題だといわれる。世田谷区では，テーマ型コミュニティも多く，また直接まちづくりに関わる組織も多いことで知られるが，こうした各種団体の能力がまちづくりに十分発揮されているとは言い難い。一方では，住民団体と全く無縁な区民も少なくない。まちづくりに関するイベントは，こうした人々や団体がまちづくりに関心を寄せる機会として企画される場合が多いが，一過性で継続的なまちづくりに貢献することが少ないとの批判がある。

本研究では，これを克服しようとする試みである，東京都世田谷区の「ぷりっじ世田谷」を取り上げ，その成果と課題について考える。

2．世田谷区でのまちづくり活動グループの現状と「ぷりっじ世田谷」のねらい

世田谷区には，まちづくりハウス，まちづくりファンド（独自のまちづくり活動支援システム），多くのＮＰＯ法人があるほか多種の住民団体，サークルがある反面，これらの活動に関わらずまた，住民参加のまちづくり活動が行われていることを知らない区民も多い。一方，住民団体が多いことは，これに関する情報が拡散してしまい，一般区民が何らかの課題や関心を持っても，必要な情報にアプローチしにくいという側面もある。

「ぷりっじ世田谷」は，こうした各種団体の連携を探ると共に，一般区民にも情報提供する場として企画された。

その経緯を記すと，1998年，区の政策経営室政策・都市デザイン担当課の呼びかけに応じた実行委員が行政と共に1ヶ月のイベントを実施した。「ぷりっじ世田谷」の名称は，世田谷区のまちづくり関わる様々な人・情報・モノに“ぷりっじ（橋）”を架けるという意味を込めて付けられた。

そのねらいは，①地域や活動分野の違いを超えたまちづくり活動グループ間の相互交流とネットワークづくり②まちづくり活動グループと区・事業者のパートナーシップの形成，である。これは，1988年の「まちづくりリレーイベント」の成果を受け継ぐものとして1997に企画の素案が提案された。以後，1999年，2000年と，それぞれ前年の評価，反省をふまえて，継続的に行われている。（なお，筆者の田山はこれの実行委員として初期の段階から関わっている。）その企画内容，成果，課題をまとめたものが表－1である。

3．「ぷりっじ世田谷」の3年間の成果と課題についての考察

3年間の成果と課題を，「参加者」「活動グループ間の連携」「支援体制」に分け整理したものが表－2である。

キーワード：ぷりっじ世田谷，住民参加，まちづくり，イベント
連絡先：〒236－8501　神奈川県横浜市金沢区六浦町4834　　TEL・FAX　045－786－7753

表－1　「ぶりっじ世田谷」の企画内容，成果，課題

	1998年	1999年	2000年
事務局	都市デザイン担当課	都市整備公社まちづくりセンター 生活文化部管理課	都市整備公社まちづくりセンター 文化生活情報センター生活工房 市民活動推進課
企画	1ヶ月間のイベント 行政・まちづくり活動グループの個々の企画で参加	三茶福祉まつり（社協）との連携 ぶりっじマーケット，福祉喫茶 ファンド中間発表会，一時保育	共通テーマ「風通しをよくする」 ぶりっじマーケット（4日間） ぶりっじカフェ
成果	様々な活動・人に出会えた 区民と行政のつなぐ場の有意義性 多種多様の活動の発表ができた	同じ分野グループの交流ができた 三茶福祉まつりとの合同企画成功 ぶりっじマーケットの賑わい	駅前広場でのオープンカフェ （気軽に参加でいるような環境） 十分な活動PR（マーケット）
課題	継続させたい 行政とのつなぐ場にならなかった 参加者不足（アピール工夫） 人のネットワークを広げたい	参加者不足（アピール工夫） イベントの主旨がよく分からない 実行委員・事務局の労力の負担 事業者の参加が得られなかった	参加者不足（アピール工夫） イベントの主旨がよく分からない 共通のテーマが抽象過ぎて分かりにくい（テーマが生かされてない）

表－2　成果・課題・提案のまとめ

	成　果	課　題	提　案
参加者	・企画参加するグループが増えた	・一般区民の参加者が少ない ・イベントの主旨が分からない	・PR方法，イベント企画の工夫 ・勉強会
活動グループ	・同じ分野同士の活動グループの交流・出会いが生まれた	・異分野間のグループの交流不足 ・交流が生まれても継続性がない ・自分達の企画だけで精一杯 ・参加グループの活動の差がイベントの企画の差に出る	・ジョイントイベント企画 ・定例会と集中イベント ・同じ分野同士の共同イベント ・同じ分野同士の共同イベント ・勉強会
支援	・行政や社協等の協力が出てきた	・事業者との交流ができなかった ・まちづくりセンターに任せすぎ	・PR方法の工夫 ・事務局も自分達の手で運営

当初のねらいについて，一定の成果が得られたことは確かだが，なおまだこれが不十分である部分（一般区民の参加が少ない，異分野同士の交流不足，事業者の参加，協力の欠如等）がある。さらに新たな課題として，参加グループが増えた反面，「ぶりっじ世田谷」の主旨が伝わらないといったことや，参加グループの力量の差が露になり，行政や社協等の協力が得られた反面，事務局がこれらに依存するようになるなどが浮かび上がってきた。

しかしながらこれらは，継続的な課題として，対処すべきであり，その方法についての提案の概略を表－2に付記しておいた。

4．結語

まちづくりにおける行政と住民・事業者のパートナーシップの必要性が各地で論じられているが，その定理が容易でないのも事実である。「ぶりっじ世田谷」を継続して行う中で，地域まちづくりを担う人々の活動とネットワークの基盤づくりが進展するような具体的な改善案を検討したい。

謝辞：(財) 世田谷区都市整備公社まいづくりセンターの斎藤啓子氏より，貴重な助言や指導を頂いた．ここに謝意を表する。

参考文献：世田谷区，『まちづくりネットワークフォーラム「ぶりっじ世田谷」の記録』'98　'99